

1 はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大により、子供達の成長に大きな意義をなす特別活動の場を確保することが困難となり、入学当初から制約を受けている低学年児童にとって、人間関係形成の機会が乏しい事態となっている。特別活動の目標を達成するためには、集団活動の機会を設けていくことが大変重要である。ここでは、低学年児童の集団への所属感や連帯感を高めるために取り組んだ本校の実践事例を挙げていく。

2 資料(実践事例、写真等)

(1) 1年生を迎える会

ア ねらい

1年生は、上級生と楽しく一緒に遊ぶ体験を通して、学校の児童集団を知る機会にするとともに、学校生活への意欲をもてるようにする

イ 主な内容

- ・仲間づくりゲーム(太鼓を鳴らした数の人数で集まるゲーム)
- ・〇×クイズ(〇と×のエリアを作り、正解だと思う方に移動するクイズ)
- ・プレゼントの贈呈(6年生からメダルのプレゼント)



6年生と入場



仲間づくりゲーム



〇×クイズ



メダルのプレゼント

(2) 創立記念集会(オンラインにより実施)

ア ねらい

創立149周年を祝う活動を通して、学校の歴史を理解するとともに、所属感の高揚や愛校心を養い、元気で明るい生活を送ろうとする意欲を高める。

イ 主な内容

- ・学校の歴史クイズ(学校の歴史にまつわるクイズ)
- ・学校の自慢発表(学年代表による学校の自慢作文発表)
- ・いいところカードの作成、掲示(一人一人が思う学校のいいところを記入し掲示)

3 成果と課題

1年生を迎える会や創立記念集会では、全校児童がともに活動することで、低学年の児童にとっては貴重な体験となり、集団への所属感や連帯感が高まった。オンラインでは活躍できる児童が限られたり、画面越しでの交流となったりするので、オンラインで行った後に、学年間で交流するような対面での活動がもてれば、さらに集団への所属感や連帯感が高まるのではないかと考えた。